

第9期 第2四半期報告書

# 株主の皆様へ

2010年1月1日～2010年6月30日



## CONTENTS

2010年中間期のポイント	1
株主の皆様へ	3
セミナーレポート	6
■「好業績経営の極意」を開催	
展示会レポート	7
■「画像センシング展2010」で当社新製品が注目の的に	
要約四半期連結財務諸表	8
企業・株式情報	10

OPTEX FA CO., LTD.  
オプテックス・エフエー株式会社

POINT

# ① 営業・製品戦略強化の成果が現れはじめました。

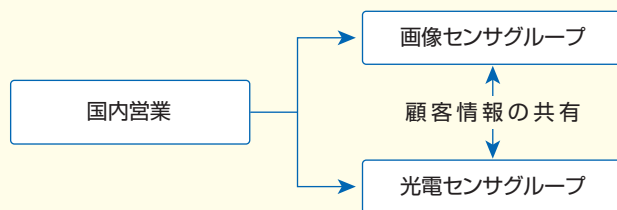
当社の2010年上半期の業績は、回復に転じました。これは、欧州及びアジアを中心に設備投資需要が拡大していることに加え、当社が取り組んでいるさまざまな施策の成果と考えています。

当社は2009年度から営業体制を抜本的に再構築し、専門性を発揮できるグループをつくとともに、WEBによる積極的な拡販に取り組んできました。さらに、「高品質、だけど低価格。」をコンセプトに製品力を強化。世界最速・最長を実現したファイバンプや200機種に及ぶファイバユニットを揃えるなど、トータルなソリューション提案のできるラインナップを整えています。

## 当社のこれまでの取り組み

### 営業戦略

国内営業を「画像グループ」と「光電グループ」に分け、それぞれの顧客に最適な提案をおこなうことでお客様の問題解決に役立つ体制を作りました。またWebサイトを通じた認知度向上や販売にも力を入れています。



### 製品戦略

「高品質、だけど低価格。」をコンセプトに業界No.1を目指して自社製品の拡充に取り組みました。また、SICK AG社との技術提携の強化、品質管理の体制強化、ファブレスでの大量生産によるスケールメリットによる価格競争力の強化に取り組んできました。



#### 「高品質」の理由

1. SICK AG社との技術提携
2. 基幹技術を自社開発
3. 確かな品質管理体制

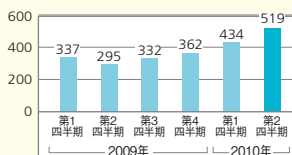
#### 「低価格」の理由

1. 適正な営業利益を追求
2. ファブレス生産でマーケティングに特化
3. 大量供給の恩恵

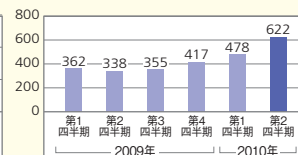
## 見え始めた成果

- 顧客に密着したソリューション提案により、営業の質が向上
- 今後拡大が見込まれる液晶・太陽電池などの新規顧客層を開拓
- 当社の強みである食品・医薬品・薬品分野でのシェアアップ
- 画像センサやファイバセンサの他社からの置き換え需要の拡大
- 新製品の注目度アップ、売上への貢献

アプリケーション機器の売上高推移 (百万円)



汎用機器の売上高推移 (百万円)



**2010年度の売上高予想は過去最高の39億円。  
次年度以降も、成長軌道に乗り、2012年度売上50億円を目指す。**

## ② 「協業」による製品開発に取り組みました。

当社では新製品開発の一環として、他社と接続可能な仕様を持つ「協業製品」開発にも力を入れてきました。

従来からSICK AG社との協業により製品ラインナップの充実や高付加価値化を進めてきましたが、当期は例えば、三菱電機株式会社の製品と接続して使用する製品を開発するなど、さまざまな企業との協業に積極的に取り組んでいます。

### SICK AG社との協業

#### 「印字」と「バーコード／2次元コード」の内容照合システムを発売（2010年8月）

賞味期限や製造番号などの「印字検査」と、「バーコード／2次元コード検査」という2つの検査をおこなうに



は、これまで特別なプログラムと装置が必要でしたが、この1台でチェック可能になりました。当社の画像センサコントローラと文字認識カメラにSICK AG社のコードリーダmini-lineシリーズを組み合わせました。あわせて標準価格は50万円程度と、従来の約半額でシステムが構築できます。

### 三菱電機株式会社との協業

#### 当社のレーザ変位センサが三菱電機社製のPLC（プログラムロジックコントローラ）と接続可能に（2010年6月）

工場内の生産設備やセンサをコントロールするPLCの分野で業界No.1の三菱電機株式会社。当社では多くのお客様からのご要望を受け、同社の主力PLCであるMELSEC-Qシリーズと、当社の高性能マルチレーザ変位センサCD5シリーズを簡単に接続できるプログラムを開発しました。今後も三菱電機株式会社との協業を進めていく計画です。



### その他の新製品

#### 1月発売

#### 世界最速デジタルファイバアンブ「D3RFシリーズ」

世界最速の超高速応答で1秒間に3万個以上を認識、検出距離も従来品に比べ大幅にUP。



#### 2月発売

#### 超小型LED照明コントローラ「OPPD-15」

従来比で体積1/12、価格55%ダウンを実現。超コンパクトサイズに業界初の高機能が凝縮。



#### 4月発売

#### ベストセラーの画像センサ「CVS1」をリニューアル

画像センサのベストセラー機をさらに使いやすく、高機能にリニューアル。



# 蓄積してきました開発力と営業力で、反転攻勢に打っ



代表取締役社長 **小國 勇**

**Q** 当第2四半期の市場環境と業績について教えてください。

**A** 国内外の製造業の復調を受けて、業績はV字回復となりました。

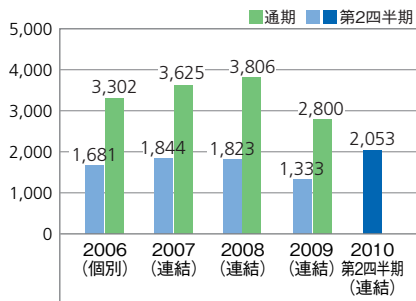
中国などのアジア経済の好調と輸出の回復に支えられ、産業用センサ市場は国内外で大幅に回復し、当社の業績も急速に回復しました。

まず、国内市場では太陽光発電や二次電池、液晶関連向けの販売が大きく伸びました。また、従来から取引の多い三品業界（食品・医薬品・化粧品）向けの販売も堅調に推移した結果、変位センサとファイバセンサは前年対比で倍増、画像関連も18%増となるなど大幅なV字回復を達成しました。

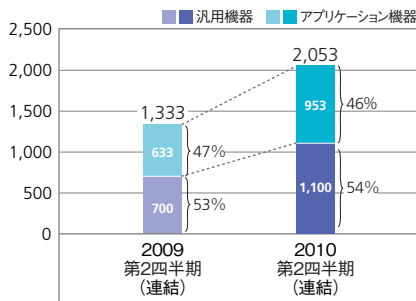
一方、海外では、主力市場である欧州向けの輸出が増えました。これは欧州各国から中国などの新興国に向けた生産機械の輸出が増えているためで、提携するSICK AG社（独）向け汎用センサの輸出が前年比60%増となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高が20億53百万円（前年同期比54.0%増）と過去最高を記録。利益面は、営業利益は2億円（同638.9%増）、経常利益は2億17

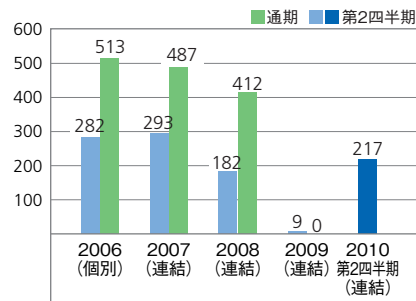
売上高（百万円）



品目別売上高（百万円）



経常利益（百万円）



# て出ます。

百万円(同2162.3%増)、四半期純利益は1億13百万円(前年同期は38百万円の四半期純損失)となりました。

## Q 業績回復の要因と貴社の取り組みについて教えてください。

### A 積極的な新製品投入と営業展開が実を結びつつあります。

業績回復の要因として市場全体の回復は大きな要素ですが、これに加えて当社がこれまで地道に取り組んできた「新製品の積極的な市場投入」および「営業活動の強化による新製品のアピール」の成果が現れつつあると考えています。例えば、前年対比で売上が大幅アップとなった変位センサやファイバセンサなどがその好例で、前期から継続展開してきました画期的な新製品投入とキャンペーンなどの販促活動が、成果として現れています。

また2008年10月以降の世界規模の不況下で、各企業が集中的に経費削減に取り組んだ結果、各企業の購買担当者が、自然な流れとして「高品質、だけど低価格。」をアピールする当社製品に注目するようになったことも、大きな成果でした。

営業面では、ホームページの活用と、営業スタッフによる顧客訪問

が相乗効果を発揮しつつあります。当社ホームページへのアクセス数は2009年9月のリニューアル後、着実に増加し、月に数百件の新規ユーザー登録があります。これらの顧客に対してピンポイントな提案営業をおこなうことで、営業効率が大幅に向上しました。営業部隊の再編もおこない、製品分野ごとに「画像グループ」「光電グループ」に分け、それぞれのニーズに応じた専門的な提案活動を強化しました。

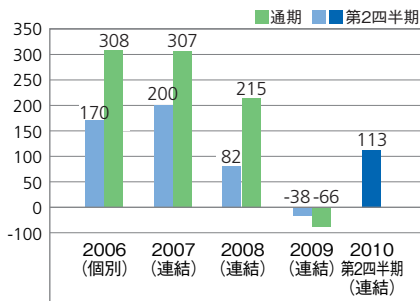
## Q 新製品開発に関する考え方を教えてください。

### A 徹底したマーケットインで顧客ニーズを発掘し、製品化します。

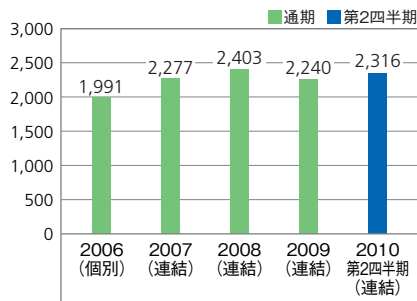
新製品開発にあたっては「マーケットイン」の考え方を徹底しています。これは、顧客に密着した営業活動の中から、顧客および業界全体のニーズを正確に掴みとり、その解決策を製品化する方法です。

その代表例が、三菱電機社製のPLC(工場内の生産設備をコントロールするコンピュータ)と当社の変位センサを簡単に接続できるようにするプログラムの開発や、SICK AG社との協業による

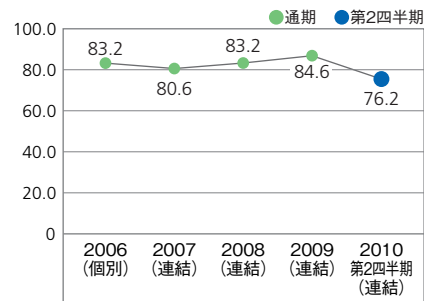
当期純利益(百万円)



純資産(百万円)



自己資本比率(%)



「印字とバーコード/2次元コード内容照合システム」の製品化です。これらは、市場に存在しなかった、あるいは存在したが非常に手間や費用がかかっていたものを製品化した実績であり、マーケットインによって顧客ニーズを掴んだ事例です。

また、新ジャンルの開拓としては、LEDバー照明があります。この製品は従来の照明専門メーカー品には無い、明るさと低コストを両立させており、センサメーカーだからこそ開発できた製品としてマーケットに受け入れられています。

## Q 下期の施策と見通しについて教えてください。

**A** 営業と新製品開発の両面を強化し、過去最高の売上をめざします。

下期の市場環境は、国内は引き続き堅調を維持し、海外もヨーロッパなどで多少の不安定要因はあるものの好調が続くと見えます。販売面では利益率の高いファイバセンサ、変位センサ、画像センサなどアプリケーション機器の拡販に力を入れます。

新製品開発に関しては、更なるマーケットインの徹底によるニーズの掘り起こしに取り組みます。私たちの目から見ると、潜在ニーズがありながら、製品化されていないセンサは、まだ多数存在します。こうしたマーケットは規模が小さいため、大手メーカーは参入し難く、当社



が活躍できる余地は十分あります。こうした10億前後の規模のマーケットを複数開拓していけば、その蓄積効果は非常に大きなものとなります。下期に販売を予定している次世代LED照明コントローラや、

ステンレス筐体センサなどが、まさにそういった製品です。

こうした施策を着実に実行することにより、通期の連結業績予想については、売上高39億円(前年同期比39.2%増)、営業利益2億80百万円(同

4899.6%増)、経常利益3億100百万円(前年同期は500百万円の経常利益)、当期純利益1億80

## Q 配当と中長期的な見通しについて教えてください

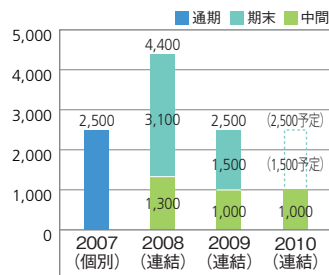
**A** 中間配当金は前期据え置き、2012年売上50億円へ向けて営業強化。

中間配当については計画通り、前期据え置きの1株あたり1,000円とさせていただきます。期末については1,500円を予定しており、年間配当金を2,500円とさせていただく予定です。配当に関しては業績の動向を見ながら、株主還元と内部留保のバランスを総合的に勘案し判断させていただきます。

当社は、中期的な見通しとして2012年での売上高50億円を目指しています。その達成のためには売上高に占める国内比率40%、SICK AG社向けなどのOEM製品を除く自社ブランド比率50%以上が必要と考えており、達成に向けて努力しています。国内営業をより一層強化し、業界ナンバーワン企業をターゲットとした置き換え需要の掘り起こしにも全力を注いで参ります。

株主の皆様には、今後とも長期的な視点からご支援いただけますようお願い申し上げます。

配当金額(円)



# 食品産業の経営・管理層向けセミナー 「好業績経営の極意」を開催



当社は、2010年7月20日(火)、東京にて、経営・管理層向け無料セミナー「好業績経営の極意」を開催。  
関東・中部地方の食品産業のリーダー層を中心に、ほぼ満席となる約200名のお客様に聴講者として参加いただきました。

セミナーは3部構成でおこなわれました。

第1部は、ベストセラーのビジネス書籍『日本でいちばん大切にしたい会社』の著者である法政大学大学院教授 坂本光司先生に「好業績経営を維持する企業」の特徴をお話いただきました。とくに、①社員とその家族、②社外社員とその家族、③顧客、④地域住民、⑤株主・関係者の「5人を幸せにできる会社であること」が企業経営において重要とお話いただきました。

第2部は、「最新事例で知る“食の安全と安心”」と題し、カルビー株式会社生産本部エンジニアリング統括部 技術管理部 部長の倉持正夫氏に登場いただき、自社の品質保証事例をご紹介いただきました。長年培われたノウハウと、品質を維持していくための倫理基準について貴重なお話をいただきました。

第3部は「食品事故の低減に向けて」と題し、当社 国内営業部 画像グループ プロダクトマネージャーである齋藤 拓が「食品事故の現状と対策」を紹介。食品事故の1/4以上を占めるのが印字事故であり、リコールにも直結しやすいことなどを説明しました。

セミナー会場は熱気にあふれ、参加者の多くを占めた食品産業のリーダー層からも好評をいただきました。当社は印字検査機の累計出荷台数で世界No.1メーカーとして、今後も食の安全と安心に関するセミナーを開催していきたいと考えています。



## 食品産業のリーダー層へ製品・技術をアピール

セミナーの前後では、オブテックス・エフエーの製品をはじめ、共催企業であるマーケムイメージ株式会社、株式会社デジタル、日本エフ・エーシステム株式会社、ソフトブレン株式会社の製品をデモンストレーション展示。多くのお客様に製品と技術をアピールしました。



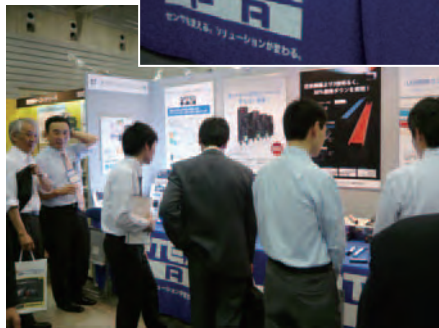
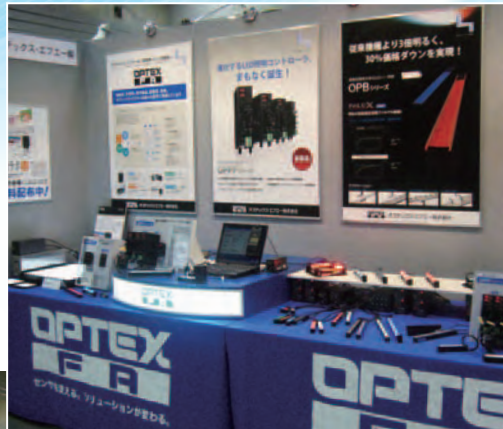
# 「画像センシング展 2010」で当社新製品が注目の的に。

次世代LED照明コントローラ・LEDバー照明などを出展

当社は2010年6月、パシフィック横浜で開催された「画像センシング展2010」に出展しました。業界恒例となっている画像処理関連機器の総合展示会に、当社は、次世代LED照明コントローラ「OPPFシリーズ」、超小型LED照明コントローラ「OPPD-15」、LEDバー照明「OPBシリーズ」などの新製品を出展し、いずれも来場者から強い関心を集めました。

中でも「OPPFシリーズ」は、新たな高機能を搭載しLED照明の次世代コントローラとして注目の的となり、発売が待ち遠しいと大きな期待をいただきました。

生産現場から研究開発部門まで画像処理製品に関わるあらゆる人が集まるこの展示会で、当社は、新製品や技術情報を積極的に発信し、新たな顧客獲得に向けた営業活動を展開しました。



## 新製品紹介

## 次世代LED照明コントローラ「OPPFシリーズ」、まもなく誕生!



下半期に発売予定の「OPPFシリーズ」は、2010年2月に発売した超小型LED照明コントローラ「OPPD-15」に続く、当社開発の次世代LED照明コントローラです。従来の照明メーカーに比べ、性能・価格とも格段に優れており、しかもコンパクト。LED照明とセンサの両方を手がける当社ならではのノウハウが結集した新製品です。

### 主な特徴

- 1,000階調ものきめ細かなデジタル調光に加え、ストロボ機能も搭載
- 照明輝度のモニタリングとフィードバック制御機能
- シリアル、パラレル、アナログの外部制御に対応
- 最大8台の照明をコントロール可能で、調光値のバンク登録機能も搭載

四半期連結貸借対照表(要約)

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
	2010年6月30日 現在	2009年6月30日 現在	2009年12月31日 現在
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	<b>2,034,502</b>	<b>1,654,632</b>	<b>1,651,453</b>
現金及び預金	606,805	714,328	576,712
受取手形及び売掛金	990,333	589,631	687,940
製品	222,111	155,147	163,148
仕掛品	24,146	3,672	6,340
原材料及び貯蔵品	70,514	56,054	47,677
繰延税金資産	31,549	17,635	15,730
その他	89,330	118,322	154,094
貸倒引当金	△290	△159	△191
固定資産	<b>1,002,253</b>	<b>983,607</b>	<b>989,518</b>
有形固定資産	<b>75,525</b>	<b>87,925</b>	<b>77,095</b>
無形固定資産	<b>52,100</b>	<b>41,636</b>	<b>48,980</b>
投資その他の資産	<b>874,627</b>	<b>854,045</b>	<b>863,442</b>
資産合計	<b>3,036,756</b>	<b>2,638,239</b>	<b>2,640,971</b>

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末	前第2四半期 連結会計期間末	前連結会計 年度末
	2010年6月30日 現在	2009年6月30日 現在	2009年12月31日 現在
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	<b>586,527</b>	<b>235,258</b>	<b>279,766</b>
買掛金	292,176	115,251	150,927
1年以内返済予定長期借入金	—	10,572	6,378
未払法人税等	130,055	6,656	290
賞与引当金	21,453	10,613	11,018
その他	138,841	92,164	111,152
固定負債	<b>133,336</b>	<b>103,565</b>	<b>120,918</b>
負債合計	<b>719,863</b>	<b>338,823</b>	<b>400,684</b>
<b>(純資産の部)</b>			
資本金	<b>546,525</b>	<b>546,525</b>	<b>546,525</b>
資本剰余金	<b>554,098</b>	<b>554,098</b>	<b>554,098</b>
利益剰余金	<b>1,204,654</b>	<b>1,181,081</b>	<b>1,128,573</b>
評価・換算差額等	<b>7,681</b>	<b>11,659</b>	<b>6,121</b>
新株予約権	<b>3,932</b>	<b>1,444</b>	<b>2,698</b>
少数株主持分	—	4,607	2,269
純資産合計	<b>2,316,892</b>	<b>2,299,416</b>	<b>2,240,287</b>
負債・純資産合計	<b>3,036,756</b>	<b>2,638,239</b>	<b>2,640,971</b>

四半期連結損益計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間	前連結 累計年度
	2010年1月1日から 2010年6月30日まで	2009年1月1日から 2009年6月30日まで	2010年1月1日から 2010年12月31日まで
売上高	2,053,996	1,333,875	2,800,974
売上原価	1,163,958	753,625	1,627,524
売上総利益	890,037	580,250	1,173,449
販売費及び一般管理費	689,184	553,066	1,167,849
営業利益	200,852	27,183	5,600
営業外収益	17,707	4,742	9,705
営業外費用	1,162	22,317	14,800
経常利益	217,398	9,609	505
特別利益	—	—	—
特別損失	—	19	12,129
税金等調整前四半期 (当期)純利益(△純損失)	217,398	9,590	△11,624
法人税、住民税及び事業税	127,019	4,748	27,125
法人税等調整額	△20,806	43,612	29,951
少数株主利益(△損失)	△2,269	25	△2,311
四半期(当期)純利益(△純損失)	113,454	△38,796	△66,389

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間	前第2四半期 連結累計期間	前連結 累計年度
	2010年1月1日から 2010年6月30日まで	2009年1月1日から 2009年6月30日まで	2010年1月1日から 2010年12月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	109,200	148,784	65,666
投資活動による キャッシュ・フロー	△35,354	△27,725	△50,833
財務活動による キャッシュ・フロー	△43,752	△83,713	△115,103
現金及び現金同等物の 増加額(△減少額)	30,093	37,345	△100,270
現金及び現金同等物の 期首残高	576,712	676,983	676,983
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	606,805	714,328	576,712

## 会社概要 (2010年6月30日現在)

**会社名** オプテックス・エフエー株式会社  
**本社所在地** 〒600-8815  
 京都市下京区中堂寺粟田町93  
 京都リサーチパーク4号館8F  
**設立** 2002年1月7日  
**資本金** 5億4,652万円  
**事業内容** ファクトリー・オートメーション用光電センサ関連機器、  
 装置の製造・販売等  
**従業員数** 83名(連結) 67名(単体)  
**事業所** 東京営業所  
 名古屋営業所  
**関係会社** オプテックス株式会社(滋賀)  
 ジックオプテックス株式会社(京都)  
 日本エフ・エーシステム株式会社(神奈川)

## 役員 (2010年6月30日現在)

**代表取締役社長** 小國 勇      **取締役** 小林 徹  
**取締役** 坂口 誠邦      **常勤監査役** 見座 宏  
**取締役** 岩田 俊彦      **監査役** 八幡 知行  
**取締役** 西原 弘之      **監査役** 東 晃  
**取締役** 湯口 翼

## 沿革

**昭和60年(1985)** オプテックス(株)において光電センサの開発に着手  
**昭和62年(1987)** ドイツのSICK GmbH(現SICK AG社)とのOEM契約により欧州向け出荷開始  
**平成元年(1989)** SICK GmbH(現SICK AG社)とオプテックス(株)が汎用型センサの開発を目的に合弁(出資比率50:50)で、ジックオプテックス(株)を設立  
**平成14年(2002)** オプテックス(株)の産業用光電センサ事業部門を分社し、京都市山科区にオプテックス・エフエー(株)設立  
**平成17年(2005)** 大証「ヘラクレス」(スタンダード)上場  
**平成18年(2006)** LED照明事業の開始  
 名古屋営業所の開設  
**平成19年(2007)** 日本エフ・エーシステム株式会社を子会社化  
 京都市下京区(京都リサーチパーク)に本社移転  
**平成21年(2009)** 東京営業所の移転

## 株式の状況 (2010年6月30日現在)

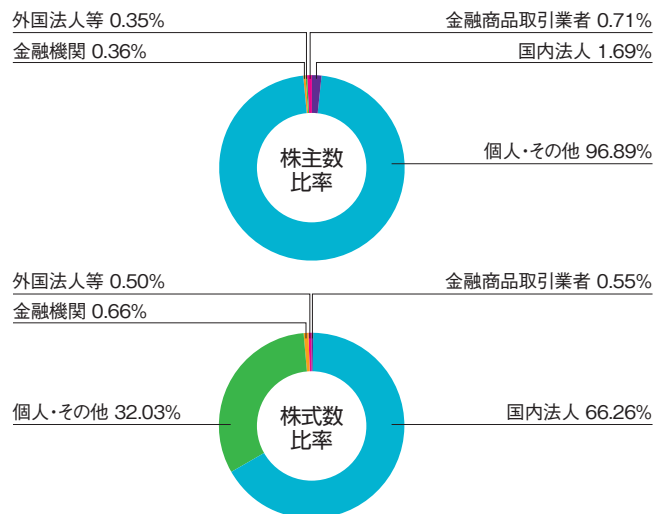
### ■ 株主数及び株式数

会社が発行する株式の総数 ..... 80,000株  
 発行済み株式の総数 ..... 24,916株  
 1単元の株式の数 ..... 1株  
 株主数 ..... 1,127人

### ■ 大株主一覧

株主名	株数(株)	持株比率(%)
オプテックス株式会社	13,600	54.58
IDEC株式会社	1000	4.01
小國 勇	812	3.25
ニチコン株式会社	400	1.60
北陽電機株式会社	400	1.60
オフロム株式会社	282	1.13
小林 徹	280	1.12
岩田 俊彦	212	0.85
株式会社山正マーケティングサービス	200	0.80
西原 弘之	196	0.78

### ■ 株式分布状況





オプテックス・エフエー株式会社

〒600-8815

京都市下京区中堂寺栗田町93 京都リサーチパーク4号館8F

TEL : (075) 325-2930 FAX : (075) 325-2931



ヘラクレス上場会社：6661

## 本社移転のお知らせ

### 営業・企画と開発をワンフロアに

当社は、2010年9月21日に、「京都リサーチパーク9号館」に本社を移転します。このビルは、現在の当社である「京都リサーチパーク4号館」の隣に新築され、電話番号やFAX番号は従来のままです。

新本社では、これまで分かれていた営業・企画と開発がワンフロアになります。従来以上に情報交換がスムーズになり、全社一丸となったスピーディーなビジネスを展開していきます。

### 京都リサーチパーク9号館完成図



### 新住所

〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町91  
京都リサーチパーク9号館4F

## 株主メモ

上場証券取引所	大阪証券取引所ヘラクレス
証券コード	6661
決算期	12月31日
定時株主総会	3月に開催
基準日	12月31日
中間配当基準日	6月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

### ■ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### 見直しに関する注意事項

当報告書の記載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見直し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の成果や業績などは記載の見直しとは異なる場合がございます。



この報告書は大豆油インキを使用しています。